# ＪＳＣＡ九州メール版

発行・日本建築構造技術者協会九州支部
粕屋郡志免町別府北４丁目-2-1
TEL 092-623-3363 / FAX 092-623-3364
Web Site：http://jscakyushu.jp/
E－mail：info@jscakyushu-.jp

## 2016年巻頭言

2016 年新年のご挨拶

２０１６年　１月　ＪＳＣＡ九州支部長　　宮田　俊英

新年あけましておめでとうございます。

去る，５月 13 日の九州支部総会に平行して「九州構造デザイン発表会」が開催されました。前年度の発表会の盛り上がりを受け、定例化を望むにより開催されました。今回は、九州の様子を拝見したいと、関西支部・中国支部と四国支部より見学に来て頂きました。昨年度に続き大変盛り上がりました。発表者の方々は大変お疲れ様でした。今年も企画されていますので、皆様の参加をお願いしたいと思っております。

昨年の持ち回り役員会は 7 月 11 日に長崎市で行われ役員会の前に長崎の歴史を探る「長崎さるく」が催されました。参加者の方々は一様に楽しまれていました。長崎での役員会には、九州の元気を見て見たいと、JSCA 本部より新会長の森高様にオブザーバーとして参加して頂き、その後の懇親会にも参加して頂き、大いに盛り上がりました。

景気回復はまだまだの様で、「アベノミクス」は立ち消えした様にも感じます。適合性判定の物件数もやや減少傾向で景気に陰りが有るようにも感じられます。12 月の景気回復動向は、前年度比 0.1%のプラスと若干の上向きですが続いて回復するよう期待します。

平成２５年の１１月２５日に改正「耐震改修促進法」が施行されました。旅館、病院等の不特定多数の人が利用する一定規模以上の建物について、耐震診断の義務化と、その結果の報告が昨年の１２月３１日が期限とされていましたが、未報告の建物もあるようです。一般の方々に対して耐震診断の相談窓口を引き続き設置していますが、相談件数は少ないようです。

また、一昨年の総会に於いて承認を頂いた参加型の実験については、「鉄骨梁の横座屈・横補剛について」と言うテーマで、１１月１４日に福岡大学にて公開実験が行われ多くの方に見学して頂きました。又、９月２日にも鉄骨部会の方で九州産業大学に於いて、鉄骨梁端ハンチ形状の違いによる破壊性状の違い実験も行われ、こちらも多くの方々に見学して頂きました。

支部としてはこれからも皆様のご意見を頂き、皆で盛り上がる九州支部で有りたいと思っています。

最後に今年も皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

## 新年を迎えて

副支部長　　大塚真裕

新年明けましておめでとうございます。

建設業を取り巻く環境は、政府の建設投資や民間設備投資の増加により回復基調にあり、皆さまにおかれましては、多忙な日々を過ごされていることと思います。さて、昨年の建設界を振り返りますと相次ぐ重大問題に揺れた年だったと思います。特に免震材料の試験データ偽装、杭の施工データ流用等、技術者倫理にかかわる問題がクローズアップされました。すでに免震材料に関しては大臣認定の審査体制が強化され、施行規則改正の省令や関連告示が公布、施行されています。今後は杭に関しても大臣認定の在り方や規則等が整備されていくことと思います。築城 10 年落城 1 日、これまで築いてきた信頼がちょっとしたことから失われていくことにもなります。忙しい中にも信頼される構造技術者の模範となれるよう活動をしていきたいと思います。

本年も昨年同様、「構造設計技術者を対象とした現場監理講習会　第二回」をはじめとして、各部会での講習会や見学会が予定されています。また、JSCA 九州構造デザイン発表会も恒例になりつつあります。このような活動を通して、「安心」な社会の実現に向け JSCA の目指す、建築構造設計界をリードする高い見識と専門能力、説明能力、高い倫理観をもった人材の育成に力を入れ、構造設計者の職能向上につなげて行きましょう。

今年も会員各位のご支援を宜しくお願い致します。

副支部長　　原　英基

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年九州支部では例年の活動の他に、Structure 九州特集の発行にむけ編集委員会を始めとして地区会の皆さんにも大変な注力をいただきました。おかげで皆さんの努力が形として残ったことは大変意義あることだと思っています。ご協力本当にありがとうございました。

業界では免震ゴムの性能偽装、杭の施工記録の改ざんという社会的信頼を失う事案が起こりました。全く言い訳のできない事です。別の話ですが、2020 年東京オリンピックのエンブレム盗用疑惑問題、同じく新国立競技場の設計コンペやり直し問題も大きな話題となりました。今までは考えにくかったことが現実のこととなり、何か日本が、あるいは日本人が変わってきたかな？という感じがしないでもありません。勿論のこと、競争相手は日本国内だけではないし、情報はあっという間に世界中に拡散するしの昨今ですから、そういう意味では変わらないほうがおかしいのでしょう。顔を突き合わせての間柄ならできたことも状況が変わればそうもいきません。JSCA 会員一人ひとりが社会規範を守っていくことは勿論ですが、組織として会員をサポートしていくようなシステムも今後は必要なのではないでしょうか。

ともあれ今年も皆さんと情報交換をしながら、楽しく仕事がしたいものです。
ご協力よろしくお願いいたします。

## 技術委員会

技術委員長

㈱JE 構造設計　　上瀧 邦宏

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

年末まで 12 月が期限であった耐震診断義務建物の処理に追われましたが、新聞によれば実際には義務建物の半分程度がようやく処理できた状態の様です。残りの義務建物がどのような動きをするのか注視する必要があるようですが、何れにせよ後は収束方向に向かうのですから、次の話題は「緊急避難路添いの建物」に移るでしょう。行政におかれましては、できれば今回の義務建物での経験をもって素早い対応を期待するところです。

さて、年末に発表された昨年を表す漢字は「安」でした。春に起こった「免震ゴム騒動」、夏の「安全保障騒動」、秋の「杭騒動」等の社会問題が根底にある気がいたしますが、本来の「安」は「安全、安心」の「安」であるはずが「不安」の「安」となってしましました。海外に目を向けると、まずは「イスラム国」の無差別テロを抑え込めるのか。そしてやはり中国の動きが気になります。段々見えてきた「南沙諸島問題」、８月に起きた「天津大爆発」、12 月に起きた「深セン大地すべり」、「北京のＰM2.5」そして中国経済の減速と、こちらも「安心」できる材料がありません。こんな中で、一体日本はどこへ行くのかなあ。

兎に角みんなで頑張って、良い年にしましょう。

## 地盤系部会

地盤系部会長

清水建設㈱　　佐守　康司

新年明けましておめでとうございます。昨年はＪＳＣＡ機関紙ストラクチャーで九州主集を発行し、その中で地盤系部会としても活動を紹介させていただきました。全国の皆様に、九州の特徴ある地盤に関して少しでもお伝えできたのではないかと思っております。また昨年末に起きた、いわゆる「杭打データ改ざん問題」は、構造設計者の監理者としての社会的責任が強く求められていると感じられました。建設に携わる者として一般の方々の信頼を回復するためにも、構造設計者自らのスキルアップは不可欠であり、具体的には平成 28 年中に、他団体と合同の「建築基礎設計の実技講習会」を開催する予定となっています。最後にＪＳＣＡ会員の皆様の、より一層のご健勝とご活躍をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

## 設計規準系部会

設計規準系部会長

吉原建築構造計画　　吉原　浩晃

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年の設計規準部会においては、東工大 和田先生、東北大 木村先生、JSCA 副会長 金田さんのご協力の下、盛大な勉強会が開催出来、さらに福岡県住宅センター様の主催で、現場監理勉強会も行われ、九州支部部会として共催することが出来ました。これも、ひとえに皆様のご尽力、ご協力の賜と、この場をお借りして、感謝申し上げます。

今年度にあっても、他の部会と共同し、会員皆様のスキルアップのため、色々な設計勉強会、講習会等も開催したいと考えております。

今年も御協力の程、よろしく御願い申し上げます。

## コンクリート系部会

コンクリート系部会長

㈱大林組　　伊藤　義弘

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、国内経済は穏やかな回復基調を持続しており、建設需要が高まりを見せましたが、その一方で、「免震ゴムの性能データ偽装」および「杭工事におけるデータ流用」等建設業界に対する不信感を抱かれる事件が発生しました。

昨年度のコンクリート系部会の滑動として、ボイドスラブ工法講習会（４月）、免震構造・Ｐｃａ工法を採用した超高層マンションの現場見学会（７月）及び付着割裂講習会（８月）を開催しました。

本年度は、昨年に引き続き他の部会と協力し、会員皆様の構造設計者としての技術力アップ、技術研鑽の場を提供していきたいと考えております。

今後の要望も含めて、会員皆様のご協力をお願い致します。

## 鉄骨系部会

鉄骨系部会長
鹿島建設㈱　　尾宮　洋一

昨年福岡では、ソフトバンクの日本一連覇と中国・韓国からのツアーや「爆買い」が話題だったのではないでしょうか。

今年は申年です。申（猿）は木の上を飛び回ることから、超ポジティブな年になりそうです。また、リオーオリンピックもあり、日本人の活躍が期待されます。

‘15 年 6 月は、「九州の鋼構造物歴史散歩」を発刊することができ、7 月に世界遺産「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に登録された施設の多くを掲載しており、良いタイミングでのお披露目になりました。8 月には、宮崎県鉄構工業会青年部とＪＳＣＡ宮崎地区会の発起による「梁端ハンチの実験」を、九産大の九谷教授の多大なるご支援を受け公開実験することができました。参加者からは、破壊現象を目の当りにした貴重な経験と今後の製品作りに対する真摯な気持ちが得られたと、大変好評を得ました。

新年度には、鉄骨設計関連の講習会を計画します。さらに、ハンチ梁の性能実験第 2 弾が出来ればと思います。青年部やなでしこ会の協力も得られればと思います。

会員各自の問題意識を解決する場として、鉄骨部会に要望があればご意見を下さい。

会員のみなさまも、健康には充分気をつけて、実りある１年を過ごしてください。

## 木質系部会

木質系部会長
(株)川崎構造設計　　川崎　　薫

あけましておめでとうございます。

昨年は、比較的景気は好調だった様に思われます。皆様も色々と忙しかったのではないでしょうか。木造建築については、一昨年程から徐々に動き始めた低層公共建築物の木造化計画の流れが、昨年は一層進んだ感じがします。地元県産材の利用，町有林の活用等、発注元もよく勉強されてきています。今年はその流れがより増すのではと予想しています。

さて、本木造部会は、毎年月１回の木質関係の勉強会を開いています。昨年は、久しぶりに 4 号建物の計算法，仕様規定の内容等を改めて勉強しました。今年の 3 月でそれも終了します。4 月からの勉強内容を何にするか・・・。今、参加者に声をかけて広く募集してます。この勉強会は、JSCA 会員に限らず広く門戸を広げた勉強会です。今は、意匠設計，構造設計，施工者，行政，弁護士等、多業種の集まりとなって、にぎやかな会になっています。

今年は申年で見ざる，聞かざる，言わざるの言葉が有りますが、見てござる，聞いてござる，言ってござる精神で、積極的に動いていこうと思います。本年もよろしくお願い致します。

## 特殊(PC)系部会

特殊(PC)系部会長

オリエンタル白石㈱　　内山　執樹

明けましておめでとうございます。当部会の活動目的は、プレストレストコンクリート（ＰＣ）構造に関わる建築物やプレストレス力を利用した最新の工法などの情報をいち早く会員の皆様や行政に関わる方々、一般市民の方々に提供し、より良い社会資本の形成に役立つことにあります。そしてこの部会活動を通してプレストレストコンクリート構造のより一層の普及をめざすものであります。

さて、当部会では 2014 年 12 月 4 日に若手技術者のためのＰＣ建築設計・施工講習会を一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会との共催で行いました。予想を超えた参加をいただき、ほんとうにありがとうございました。本年も講習会および PC の良さを視覚的に体験していただく為、できるだけ現場見学会を開催していきたいと思っております。是非出席していただきプレストレスコンクリート構造への理解をより一層深めて頂きたいと思っております。

昨年に引き続き新築の建築現場においては、鉄筋工や型枠大工など職人不足が予想されております。建物のプレキャスト化はこの問題の有効な解決手段となります。また職人不足の解消とともに工期の大幅な短縮も可能で、廃材の少ない環境にやさしい構造・工法です。

本年も特殊（ＰＣ系）部会を宜しくお願い申し上げます。

## 青年部会

青年部会長

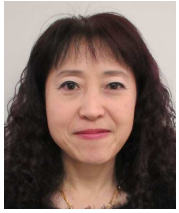
㈱構造FACTORY　　重松　正幸

新年明けましておめでとうございます。

JSCA 九州で青年部会が活動を始め、今年で 10 年目を迎えます。前任の今林前部会長の時代から継続して行ってきた九州各県を巡り各地区会の若手と交流する見学会は、昨年末に宮崎県を訪れたことで全県制覇する事ができました。これまで各地区を訪れた際には、各地区幹事の方々を始め多くの地区会のみなさんにお世話になりました。この場をおかりして御礼申し上げます。昨年の青年部会は、宮崎見学会以外にも勉強会、講習会、デザイン発表会（、そして飲み会）など積極的に活動して参りました。本年は、これまでの活動にない新しいことにもチャレンジしてみたいと考えています。「九州構造デザイン発表会」が今年も支部総会後に開催される予定です。青年部会からも継続参加したいと考えています。各地区の若手のみなさんからの積極的な参加をお待ちしております。

最後に JSCA 九州会員の皆様の健康とより一層のご活躍をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。今年もよろしくお願いいたします。

## なでしこ会



なでしこ部会長
清水建設㈱　　浅田　正子

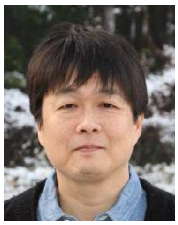
あけましておめでとうございます。

今年、なでしこ会として第１回目の会合を開いて 10 年目となる年を迎えます。なでしこ会発足の頃からすると多くの構造女子たちが活躍していることを皆さんが感じられているのではないでしょうか。我々を取り巻く環境は時々刻々変化を遂げていますが、今ではこの業界に女性がいることを普通に捉えて頂いている方も多くなっていると思います。昨年関西支部の女性の方との交流を持つことができ、九州でのなでしこ会の活動を他支部にも展開するきっかけとなりました。技術力ｱｯﾌﾟや成長の手がかりを頂くのにも良いチャンスだったと思います。

これまでの活動の主流は情報交換や展開でしたが、今年はさらに踏み込んで、情報の内容にも深いものが組み込まれてくることも期待しています。

毎年４月から１年の活動を開始しますが、毎月のミーティング以外で、すでに予定のサミットもあり、また今年も盛り沢山の活動をして行くことになるような気がしています。
このように会員の皆さんが楽しいと思いながら活動しているなでしこ会、本年もどうぞよろしくお願い致します。

## 耐震改修促進委員会



耐震改修促進委員長
㈲広岡建築事務所　　松下　淳一

皆様、新年あけましておめでとうございます。

「改正耐震改修促進法」により規定されました特定の建築物の耐震診断の実施と報告の期限が昨年末までででした。対象建物の耐震診断に係る方々は期限に追われ忙しくされたことと思います。今後は耐震性不足と判断された建物の対策が進められ耐震改修の検討と工事実施が進められることでしょう。同時に結果の公表等が控えており、公表方法等で混乱を生じないよう配慮をいただきたいと考えています。

福岡県では耐震改修促進計画の改定が予定されており、九州各地でも今後改定等が進められることになりそうです。緊急輸送道路の指定や防災拠点の指定などにより、地域によっては早急に対応が迫られることもあるかもしれません。また、耐震改修では件数はやや落ち着いたようですが複雑で大規模な案件が増える傾向であるように感じますので、高度な技術を有するＪＳＣＡ会員の活躍を期待いたします。なお、診断や診断事務所に関する相談などはＪＳＣＡ九州ホームページをご覧いただければと思います。耐震改修促進委員会では、これまで同様に耐震化の問題に取り組む予定です。皆様のご協力を今年もどうぞお願い申し上げます。

## 事業・会員委員会

事業･会員委員長

㈱GEN 設計　　石松　國彦

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、６月に法改正が行われた事などもあり、委員会・地区会の皆様のご協力により多くの講習会・見学会の開催が行われました。不慣れな中、九州支部会員の皆様のご協力には大変感謝をしております。又、本年も昨年同様に多数の活動が計画されてます。

最近は講師の方に著名な方が来ていただける事が多くなりましたし、実務面での勉強会としては、現在御活躍中の専門の方々から即、実務にて参考になる講演が開催されてます。机上の勉強会だけではなく、実物にて挙動を確認する実験も行われてます。賛助会員の方々のご協力があって開催されたものもあります。普段に賛助会員の方々が一同集まる機会がなかなかありませんが、この場をお借りして御礼申し上げるとともに、今後のいっそうのご協力をお願いします。これも産学官との交流が活発になっているものだと思われます。JSCA 本部での行事として、昨年九州支部で初めての JSCA 構造士の試験が行われました。H28 年５月の JSCA 九州支部の総会時は、昨年同様九州構造デザイン発表会を行う予定です。

事務局は前任の加藤さんから恵藤氏に引き継がれ、現在は石松・前田・恵藤にて運営を行っておりますが、青年部会・なでしこ会の皆様を含めたご協力もいただいております。今後も会員の皆様への円滑な情報伝達を行うべく事務局員共々協力していきたいと思っています。会員外の皆様も活動をご覧になられた方々には新規会員として入会頂ければ幸いです。今後とも、会員の皆様、支部幹事・地区幹事の皆様よろしくお願いします。

## 編集ホームページ委員会

編集 HP 委員長

㈱日本設計　　今林　光秀

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の structure ７月号（No.135）にて、「JSCA 九州と建築」と題して九州支部の主集を組みました。ALL－KYUSHU で取り組み充実した内容の主集が出来上がりまして、協力頂いた皆様には改めて感謝の意を表したいと思います。この主集の成功がきっかけとなり、2016 年以降も structure にて年１回の支部主集を組む流れとなっているようで、その先駆けとして九州支部が先陣を切れた事を誇らしく思っております。

編集ホームページ委員会の主な活動の一つに、年 4 回の JSCA 九州メール版の発行があります。本号では、役員の皆様による新年の挨拶に加えて、青年部会による昨年の宮崎視察旅行の模様を青年部会に執筆して頂き紹介しております。

支部の様々な活動の模様をこれからも積極的に紹介して行きたいと思っておりますので、そのネタの提供を、何卒、よろしくお願い申し上げます。

## 地区会報告

北九州地区会幹事

㈱松尾設計　　牛尾　忠信

明けましておめでとうございます。

昨年 4 月より、北九州地区会の幹事を引き継ぎましたが、なかなか上手く出来ません。今年こそはと、新規一転、計画したいと思っています。

昨年の唯一のイベントは、北九州市の産学官が連携した建築構造系講演会でした。北九州において JSCA としてなにか出来ないかとの思いで、はじめたこの講演会ですが、もう第 6 回になりました。北九州市役所、北九州の学校関係のご協力を頂き、実行しています。北九州市の学校関係の先生及び学生様 60 名ほど、北九州市より 40 名ほど、その他設計関係 30 名で、合計 130 名もの多くの参加をいただきありがとうございました。

北九州市の耐震対策のほか、メインテーマとして竹中工務店　平川様より「あべのハルカスの建設」、サブテーマとして九工大の陳先生より「1.5 層スペースフレームの原理、構成」についてご講演頂き有意義な講演会となりました。

今年の目標は、「JSCA 北九州地区会の会員数を増やしたい、産学官のほかにも何かしたい」にします。

私事ですが、今年 60 歳になりますが、技術的にまだまだと思いながら、これから新しいことが身につくかとも思います。それでも、これからも、新しいことに触れて、建築構造設計を行っていたいと思っています。

JSCA 九州の皆様、北九州地区会の皆様、本年も宜しくお願いいたします。

佐賀地区会幹事

松尾建設(株)　　香田　昌通

皆様、新年あけましておめでとうございます。

歳をとると月日の経つのが早く、あっという間に 1 年が過ぎてしまいます。

「去年はやるべきことはやったか、今年こそはこれをやらなければ」と毎年懲りずに反省する正月を過ごします。

国内経済に目を向けると、去年は景気回復の期待のなか中国経済の減速の動きが強まり、景気回復のペースダウンが見られたのではないでしょうか。

建設業界にとっても設備投資の不透明感や公共工事の縮小、また 2017 年度の消費税率引き上げを受けての個人消費の落ち込みなど、決して楽観できる状況ではありません。

更に去年は、免震装置の大臣認定偽装、新国立競技場の建設費高騰に伴う諸問題、極めつけは杭工事における施工データの流用など、私たちから見るとマスコミ報道には疑問を感じるものの、一般の人たちからの建設業界に対する信頼を失くした年ではなかったかと思います。

（次ページへ続く）

（前ページより続く）
お客様と話しをしていても杭、躯体工事に対する不安が話題に上がります。
建物は完成すれば構造体は見えません、もし万が一にも構造に関する不具合があれば、後での挽回は極めて困難なことになります。
一度失った信頼を取り戻すのは大変な努力が必要です。私も建築構造の一技術者として真摯に、そして愚直に仕事に取り組んでいきたいと思います。
さて私の周りを見れば、ここ数年来、建築設計を希望する新人を募集してもなかなか応募がなく、また入社してもすぐに離職する状況が続いていました。
しかし昨年、一昨年と意匠を始め、構造設計を希望する新人が増加して、明るい兆しではないかと嬉しく思っています。
最後になりましたが JSCA 九州の皆様、今年も健康には十分に留意され、魅力ある業界を目指して、お互い頑張りましょう。

長崎地区会幹事

(有)堅設計　　陣川　好髙

あけましておめでとうございます。
昨年の長崎地区会は例会として、講習会や見学会の開催は予定どおり実施できました。
そのほかに STRUCTURE（特集九州）の編集を、中堅を中心として地区会事業として、取り組ができたと感じております。担当した会員の方々にお礼申しあげます。
又　第１回役員会の長崎開催については、準備会を発足して、プレイベントや懇親会での余興の計画など会員全員で、楽しく準備ができたと感じております。長崎までおいで頂いた、役員、各地区会会員の方々にお礼申しあげます。
今年は、長崎地区会役員の改選の年であり、年齢的に今の体制よりすこし若返った人事で活動していく予定です。新しい体制での最初の事業として、4 年に 1 回で開催をしてきました、第 4 回建築構造展を 6 月に開催することで、準備を進めています。
この事業を成功させて、長崎地区会として、新しい体制の基、ますます活発な活動が、おこなわれるものと期待しています。

熊本地区会幹事

(株)ジメント　　満石　安雄

新年あけましておめでとうございます。
昨年 5 月より熊本地区幹事を担当しています。
昨年の熊本地区会活動は、黄色本 DVD 講習などの講習会開催や熊本県建築行政トップの建築住宅局長・建築課長・営繕課長へ JSCA の PR 活動を行いました。熊本県における JSCA の認知度は低く、今後も行政への PR 活動を続けることも必要であると感じています。（次ページへ続く）

（前ページより続く）

更に、JSCA 会員と若手構造技術者の交流が少ないように感じます。

JSCA 会員の高齢化が進んでおり若返りを計るためには、若手技術者との交流そして入会推進活動が重要であると思っていますが、若手の口説き方をご指南いただけませんか。

本年もよろしくお願いいたします。

大分地区会幹事

(株)日構設計　　高橋 正夫

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は免震ゴムの不正に始まり、杭長不足等、世間を騒がせるようなことが続き、建築業界の信用を失墜させるようなことが続きました。そのような中で、私達は人々が安心して生活できる建物の耐震安全性を確保する専門家として、今まで以上に技術の研鑽に努力することが必要と考えています。

社会経済は上向き始めていると言われていますが、まだまだ実感がないのは何故でしょうか。消費税が８％に上がった影響も受け、木造建物を始め、一般の建築物の新築が増えはじめました。しかしながら、急激な状況の変化に対応できず、材料費の高騰、品不足、施工に携わる職人の不足に悩まされているのが現状です。

また、建物の「耐震診断」を促進する国土交通省の指導により、方針及び補助金等が不透明な中、各オーナーからの耐震診断・耐震補強希望の問い合わせが殺到している状況でもあります。

今後とも、構造技術者の空洞化を防ぐため、若手構造技術者の交流・育成を行うとともにJSCA 会員の相互連携を深め、迎えた新しい年が我々にとって素晴らしい一年になる事を心から期待するものであります。

宮崎地区会幹事

(有)森本設計　　森本 啓喜

昨年中は大変お世話になり、ありがとうございました。今年もよろしくお願い致します。

安保法案の強行採決、TPP への参加、マイナンバー制度の導入、消費税率の増額、建築関連では免震装置偽装、杭打ちデーター流用など次々と不適切な事態が明るみに出て、先行き不透明な一年でしたが、皆様にとってどのようなお正月となりましたでしょうか。幸い南国宮崎は好天に恵まれ、とても暖かいお正月となりました。

宮崎地区会は、年４回程度の研修会、各種建築関連団体と共催で行う講習会や勉強会の参加活動を積極的に行っており、人材の育成、技術力の向上に多くの会員が努めております。

（次ページへ続く）

（前ページより続く）

さて、昨年６月の建築基準法の改正に伴う確認申請と適判申請の並行審査は、お施主様、設計者、構造設計者にとって、本当に良かったのか。手間だけ増えて審査期間は変わらないように感じます。

今年は東京オリンピックに関する各種競技場の施設・インフラ整備が続々と着工されます。地方都市にとってはあまり関係ないと思いがちですが、かつてバブル絶頂期には、地方都市でも技能職の不足による工期の遅れや資材不足、工事費の増加などが間接的に影響したことを思い出します。

超多忙で時間に追われ、工期が無い中「もうこれ以上は無理だ。限界だ。」と誰もが感じたことがあるでしょう。しかし、その限界を過ぎると、いつの間にかその限界が自分の中で「普通」となり、より高いところにいる自分に気づくことでしょう。我々は、その繰り返しを知らないうちにしているのです。自分が無理だと思う限界を成長の機会と捉え、日々挑戦していきたいと思います。

鹿児島地区会幹事

㈱中村建築事務所　　中村　友直

新年明けましておめでとうございます。

昨年の鹿児島地区会活動は年４回の例会や鹿児島地区役員会を定期的に行い、鹿児島大学の先生や学生の方々との交流を図るなど、勉強会をはじめとしていくつかの講習会を催すなど活発な活動が行われたと思います。

中でも、長崎で行われた地区役員会には鹿児島地区役員の半数以上が参加させていただきました。長崎地区会の皆様、その節は色々とお世話になり、ありがとうございました。

また「主集・九州」の作成におきましては、鹿児島地区役員全員で取り組んで行うなど、会員一人ひとりが活発に参加できた年でした。

今年は昨年以上に会員同志の連携を深め、講習会や見学会なども積極的に行い、構造設計者としての技術向上を目指し、またＪＳＣＡ会員確保にも力を注ぎながら更なる活発な活動を行っていこうと思います。

今年も宜しくお願い致します。

沖縄地区会幹事

(株)国建　　花城 和雄

新年、明けましておめでとうございます。

昨年の漢字一文字は「安」でした。我々にとっては建物の安全・安心の「安」となりましょうか。昨年、まさにその安全・安心への信頼を損ねる免震ゴムと杭施工に関わる偽装が話題になりました。前者は論外に置くとして、後者はメディアが真相に踏み込まずに偽装のみで報じたことは残念であったものの、安全・安心な建物を提供する者として、業界全体でその使命を改めて認識する必要がありそうです。

さて、地区会の活動に目を転ずれば、スキル UP のための現場見学会や講習会の各種活動を例年並み（4～5 件）に行うことができました。その中でも取り分け構造デザイン発表会に関する活動が継続できたことでは自画自賛も許されようかと思います。同地区内発表会は 4 回目、九州支部では 2 回目の発表でした。新聞の賀詞広告で掲げる当地区会のモットーは「わが地区会員は安心・安全の次を提案します」と宣言しています。建物の安全確保は目標であっては成らず、当然の責務と認識して、やはりその次を提案することを大切にして地区会員一同、今年も頑張ってまいります。

新年を迎え皆様方のご多幸、ご健勝をお祈り致します。

# ―　青年部通信　2015.8（創刊号）　―

JSCA 会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。
青年部通信と題して青年部の活動や構成メンバーについて随時ご紹介していきます。

1.青年部の活動報告

①定例会議

今年度の定例会議＋懇親会は 6 月と 8 月に行っています。各定例会議での主な議題と懇親会の雰囲気はこんな感じです。

【第 1 回定例（6/19@梓設計）】
・宮崎見学旅行計画
・JSCA 構造デザイン発表会 2015

【第 2 回定例（8/21@梓設計）】
・鉄構工業会との勉強会
・宮崎見学旅行計画

2.青年部メンバーの紹介

今回は 2015 年度から新たにメンバーに加わった羽田さんについての紹介です。

4 月より日本設計九州支社に転勤して参りました羽田と申します。
東北の宮城県出身で、九州では珍しい楽天イーグルスのファンです。
イーグルスファンの方いらっしゃいましたらご連絡下さい！
よろしくお願いいたします。

最後まで読んでいただきありがとうございます。今後，3～5 回/年を目標に青年部通信を発行していきたいと思います。次号をお楽しみに。

# ―　青年部通信　2016.01（新春号）　―

JSCA 九州会員の皆様　新年あけましておめでとうございます。“九州制覇”を目標に定期的に見学会を行ってきましたが、最後の地“宮崎“への見学を去る 2015 年 10 月 14～15 日に実施しました。見学会の醍醐味は、何と言っても“SS3“では感じられない実物の建物を見て触れて感じられることであり、その他、人・街・空気などの非日常感が味わえるひと時であるように思います。以下、見学会の様子を写真と共にダイジェストでお伝えします。（青年部会長：重松正幸、副部会長：新井浩晃）

JSCA 九州支部青年部会「宮崎地区建物見学会および交流会」ダイジェスト
（写真：春元英典(エス・エー・アイ構造設計事務所)、コメント：新垣辰治(構造 FACTORY)）

写真 1. チキン南蛮発祥の店「おぐら」
チキン南蛮発祥のお店「おぐら」で昼食。チキン南蛮の他に、牛南蛮もありました。どちらも、ボリューム満点で美味。

写真 2. 宮崎県庁本館(1932 年-)
現存するものの中では全国で 4 番目に古い庁舎。柱型が並ぶ外観は、タイル張りが施され、重厚感と威厳が感じられる建造物。

写真 3. 宮崎県庁 5 号館、旧宮崎農工銀行(1926 年-)
元は銀行として使われ、現在は宮崎県文書センターとして使われる建造物。レンガ調の本建物は、玄関まわりの装飾が特徴的

写真 4. 宮崎カトリック教会(2015 年-)
PC の X 梁を採用した教会の内観。照明と PC 梁が作り出す光の陰影が、教会の神々しさをより際立たせていました。

写真 5. 宮崎神宮微古館(1909 年-)
木造 2 階建て。海鼠壁が均等配置された鉄格子の窓が特徴的な外観。宝物や書籍を陳列し、保存する目的で建築された建造物。

写真 6. 宮崎県立芸術劇場(1993 年-)
照明により、昼間とはがらりと表情を変える夕方の県立芸術劇場。すぐそばには県立美術館、県立図書館が隣接。

写真 7. JSCA 宮崎の方々との交流会
JSCA 宮崎の方々とはお昼から合流し、施設見学など行動を共にしました。写真は交流会後のワンショット。

写真 8. 福岡 JSCA 青年部 in サンマリーナ宮崎
ヨットハーバーで一息。海風が心地よく、リフレッシュするのに最適な場所です。

写真 9. 宮崎県総合青少年センター(1974 年-)
ネズミ返しのように、階で出長の異なるベランダとピロティ部の偏平柱が印象的でした。

写真 10. KIRISHIMA 木の花ドーム(2000 年-)
天井構造に宮崎県産杉材の集成材を利用し、単層アーチ構造としては類を見ないスパン 100 メートルを超える大規模木造ド

写真 11. 「港あおしま」の港あおしま定食
看板メニューのひとつ「南あおしま定食」。伊勢エビの味噌汁が付いていて、お値段も手頃。とても美味しく、見た目も豪華。

写真 12. 漁師の味「港あおしま」
青島漁港内にある漁協直営の食事処。新鮮で安全な青島近海で採れた食材を使用。看板メニューは港あおしま定食と刺身定

写真 13. 青島神社
青島の中心に位置する青島神社の鳥居。島の周囲には「鬼の洗濯岩」が分布。

写真 14. 青島(特別天然記念物)
奥手に見えるのが青島。青島は全島が熱帯・亜熱帯植物の群生地として、国の特別天然記念物に指定されています。

写真 15. 青島神社内の元宮へと続く道
青島の亜熱帯植物に囲まれた参道は、他の神社とは違った独特の雰囲気。

写真 16. 鬼の洗濯岩(天然記念物)と海岸線。
新第三期海床に堆積した砂岩と泥岩の規則的互層が傾き、海上に露出し、波浪の浸蝕を受け、堅さの違いにより凹凸を生じたもの。

【まとめ】

今回の宮崎で“九州全県見学制覇“達成です。偶然にも巨人秋期キャンプを始めて見る事ができ、見学会以上にテンションが上がってしまいました。次は福岡を飛び出して四国？北海道？もっと飛び出して海外？今後も青年部の皆さんの自由な御意見と気軽な御参加をお待ちしております。

最後に、今回の計画をたててくださった宮崎出身の春元さん、宮本さん、甲斐さん、本当に有難うございました。そして、宮崎地区会のみなさん、合同見学・懇親会等々いろいろとお世話になりました。この場をおかりしてお礼を申し上げます。（副部会長：新井浩晃）

掲載記事大募集！！
正会員・賛助会員の皆様、この機関誌「ＪＳＣＡ九州メール版」へ何か掲載されませんか？！（広告など）掲載されたいかたは事務局までご一報をください。

編集後記
明けましておめでとうございます。
本号では、青年部会より活動紹介原稿を自発的に頂き、新春挨拶に続いて掲載致しました。
これからも、各部会・委員会および地区会からの原稿も積極的に掲載したいと思います。
宜しくお願い致します。
（今林・石井・福田・中島　記）